

最近ではインターネットなどを通して、がんと闘病中の芸能人の姿などがよく目に入るようになってきました。昔は、がん治療といえは入院して何本もの点滴が繋がれて、ベッドから一歩も動けないという様なイメージがあったかもしれませんが、現在では、できるだけ通常の日常生活を続けながら、がん治療を行えるようになってき



徳島大学病院口腔管理センター
高野 栄之 特任助教

ています。その一つとして歯科からもがん治療をサポートさせていただいています。

徳島大学病院は都道府県がん診療連携拠点病院で、たくさんのがん患者さんが訪れます。通院でがん化学療法を行う外来化学療法室には年間延べ約6000人の患者様が訪れています。もちろん他の病院でもがん治療を行っていますから、県全体ではこの何倍もの方々が日常生活を続けながら、がん治療を行っています。

がん治療中にはいろいろな体調の変化がみられることがあります。お口の中の変化として、口内炎や歯周病の急性化などがあります。抗がん剤の影響で起こってく

るものですが、これらの症状で歯科医院に行っても以前は、うちではちょっと……といったこともあったようです。しかし現在では病院や歯科医師会が協力して、がん患者が歯科医療や口腔ケアを継続的に受けられるための体制づくりができています。

歯科が支えるがん治療

その一つが「がん診療連携登録 歯科医」です。厚生労働省委託により日本歯科医師会が主催する「全国共通がん医科歯科連携講習会」を受講し、がん患者さんへのお口のケアや歯科治療についての知識を習得した歯科医師が登録されています。http://ganjoho.jp/med_promed_info/database/dentist_search.html)。NPOに登録されている歯科医院を受診すると、がん治療中でもしっかりととした、お口の治療・管理・ケアが受けられます。

私は、大学病院の口腔管理センターという部署で勤務しており、入院中のがん治療中の患者様のお口の中の管理を行っています。退院時には、がん診療連携登録歯科医を中心とした地域の歯科医院に引き継ぎを行い継続した管理をお願いしています。また、患者さんの治療内容に変化があった場合は、歯科医院に薬の情報や検査データを伝えるといったことを行っています。今後とも、がん治療において、病院・地域あわせて歯科からもサポートさせていただけたらと思っています。